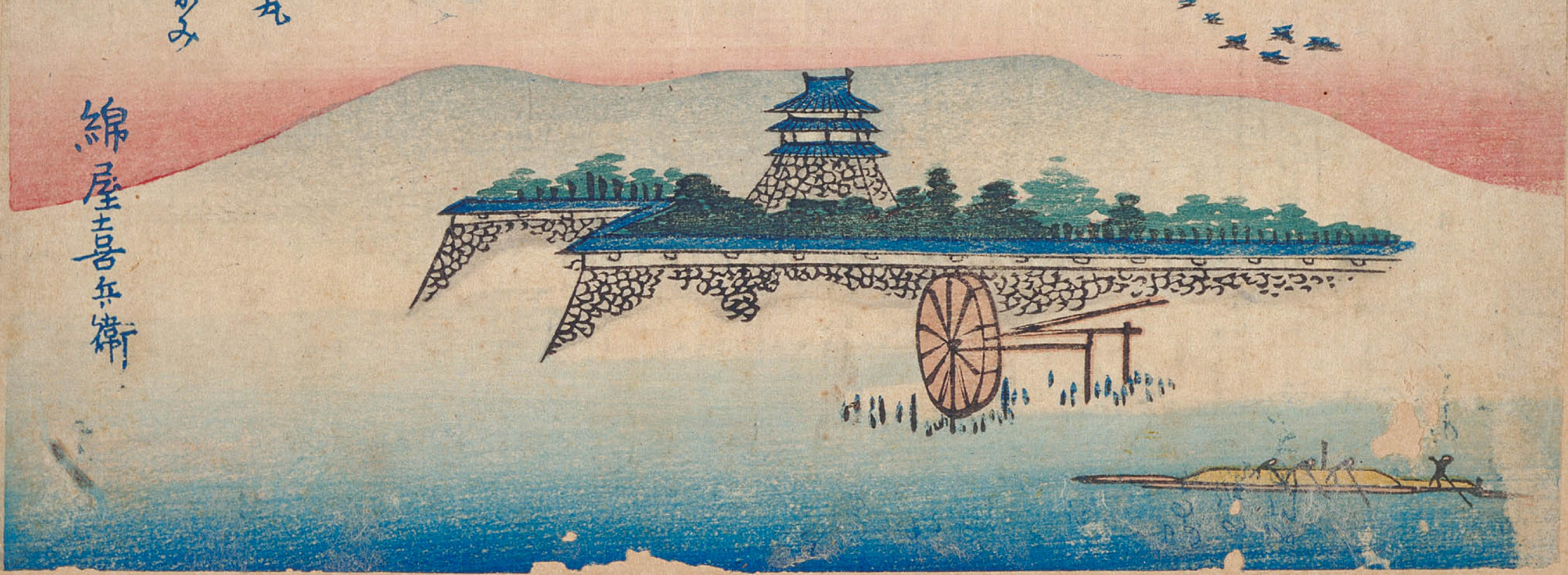
古今和歌集に

淀川のよとむと人ハ見るらめと
なかれて深き心あるものを　よみ人知らず

又淀川の水の清きことハ和漢
第一の流にて[illegible]れの来る
網嶋のあたりより取る清灣の
名水ハ山城の不濁水逢坂の
関の清水にもまさりて功能の
深きことハあぐるにいとまあらず
猶ゝ樋の口の張水にして美絶
あまねく知る所　純の清水のみより取
依て名水の周縁を出来しめんを
とき夜かの気候の[illegible]より　おまの葛
名ふくとを速かに清水をもみて
極製を出せしむる葛粉ハ口取る
わかの[illegible]しとて　おさ[illegible]なし
上品なれハ精異料理の葛餡や
菓子の中にも宜し　又素生の薬に
けかの口[illegible]ぬるにハさら[illegible]　純製の
葛をも出ける事も功能ハ筆紙に
つくしかたし　つゝしんて曝白

淀川のながれきよくて　久風言
清しこのよ　桐丸
製しするところハ葛のましろみ

清湾名水晒葛製法家元



綿屋喜兵衛

清湾名水晒葛口上　文庫10-8027-31
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library